

IV. 平成28年度後期 岸和田サテライト開講授業

1. 大学院授業科目

授業科目名 (英文表記)	連結会計特殊問題 (Consolidated Financial Statements)		
単位数	2	授業形態	講義・演習
担当教員	山田 恵一		
開講	岸和田サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 10月1日(土) 10:00~13:00	第5回 10月29日(土) 10:00~13:00	
	第2回 10月8日(土) 10:00~13:00	第6回 11月5日(土) 10:00~13:00	
	第3回 10月15日(土) 10:00~13:00	第7回 11月19日(土) 10:00~13:00	
	第4回 10月22日(土) 10:00~13:00	第8回 11月26日(土) 10:00~13:00	

【授業の概要・ねらい】

財務会計に関する理論を計算問題を通じて分かりやすく教えることを目的としています。教科書に書いていない理論的な部分は主に板書と板書ノートで対応します。

授業中は学生に質問します(質問に答えられなくても減点はしません)。また、蛍光ペンで大事な箇所を色分けしながら授業を進めます(7色の蛍光ペンを毎回の授業に持ってきてください。なお次のように色分けします。ピンク：超重要、水色：定義、黄色：～の場合、緑：重要、オレンジ：理由・目的、紫：具体例、茶色：会計基準・法律の条文・財務諸表における表示箇所)。

毎週、授業で習った範囲について問題集の問題をレポートとして課します。問題集以外にもレポートを随時課します。試験はレポートと同じ問題で出題するので、どの問題が出されてもいつでも解けるようにしておいてください(忘れる前に復習することが大事です。また、同じ問題を3回解かないと頭に入らないと思います。)

単なる暗記ではなく、どうしてそういう会計処理をするのか等を皆さんに伝え、考えさせる講義をしたいと思っています。学習範囲が広いので、授業の進度は早いです。

かなり厳しいことが書いてありますが、受講し終わった学生の満足度は高いです。3年以上、連続して受講してくれた方が複数名います。

【授業計画】

以下の項目について講義と演習を行います。学生の理解度を重視するなどの理由により授業が計画通りに進まないことがあります。

- 第1回 連結財務諸表の意義、必要性、様式、作成手順、子会社の範囲、非連結子会社、連結財務諸表の一般原則
- 第2回 資本連結の基本的処理(支配獲得日の処理、のれんの処理、部分所有子会社の処理)
- 第3回 支配獲得日後の処理(子会社の当期純利益の振替え、剰余金の配当、タイムテーブル)
- 第4回 成果連結の意義、債権・債務の相殺消去(貸付金・借入金、売掛金・買掛金)
- 第5回 成果連結(貸倒引当金の修正、手形取引、割引手形、裏書手形、保証債務の処理)
- 第6回 非償却性資産の未実現利益の消去、償却性資産の未実現利益の消去、売上高と売上原価、棚卸資産の未実現利益の消去(ダウン・ストリーム、アップ・ストリーム)、未達取引、連結精算表の作成
- 第7回 持分法の意義、必要性、前提、適用範囲、基本的な処理、株式取得時の処理、資産・負債の評価替え
- 第8回 持分法適用後の処理(開始仕訳、のれんの償却、当期純利益の振替え、剰余金の配当)、棚卸資産の未実現利益の消去(ダウン・ストリーム、アップ・ストリーム)

【到達目標】

1. 修士業論文のテーマを適切に選ぶことができるようになる。
2. 会計学の基礎理論、技法、手続きなどを問題演習も利用して理解する。

近年、税理士を目指している受講者が全体の半数以上を占めるという状況なので、税理士試験(簿記論及び財務諸表論)の科目合格や日商簿記検定1級にも役立つような授業をしたいと思っています。特に税理士試験受験者の多くは、連結会計を苦手としているので、この授業の履修をお勧めします。

【成績評価の方法】

レポート点の合計点で評価します。レポート点の合計点が80点以上は、評価Aとし、70点以上80点未満は評価Bとし、60点以上70点未満は評価Cとします。60点未満には単位を認定しません。

レポート点は、授業に出席したものをカウントします。具体的には、3時間×8回の講義がありますが、3時間のうち最初の1時間だけ欠席であれば(また、授業中に居眠りを1回注意されるごとに、1時間分のレポート点はカウントしません)、その回はレポート点を2/3とします。レポート点に関しては、最初の授業で詳しく説明します。出席点はありません。なお、欠席が全体の1/3以上の学生には単位を認定しません。

【教科書】

「日商簿記1級に合格するための学校 [テキスト] 商業簿記・会計学 基礎編2」、ネットスクール出版、
定価：2,376円(税込)、ISBN：978-4-7810-3151-4

【参考書・参考文献】

以下は問題集です。授業に持ってくる必要はありませんが、この問題集がレポートとなるので、必ず購入する必要があります。授業中に指示が無くても、授業で学習した範囲について、以下の問題集を解いてレポートとして提出してください。

「日商簿記1級に合格するための学校 [問題集] 商業簿記・会計学 基礎編2」、
製造元：ネットスクール出版、定価：1,944円(税込)、ISBN：978-4-7810-3150-7

【履修上の注意・メッセージ】

第1回目の授業に、教科書を準備して必ず持ってきてください。授業は全出席が大前提であり、会計学の場合、一度でも休むとその後の授業が分からなくなるので、絶対に休まないようにしてください。始業の時点で着席していなければ欠席となります。レポートは、授業に出席したのだけ受け取ります。授業を欠席した際のレポートは受け取りません。レポートには表紙を必ず付けてホチキスで留めてください。表紙には、科目名、提出日時、レポート範囲、学籍番号、氏名を明記してください。私語、携帯電話の使用(携帯電話に出るために授業中、教室外に出る行為は欠席と見なします。)、居眠り(レポート点を減点します。)、肘をつく、あくびは一切許しません。学生の皆さんを社会人として扱いますので、社会に出て当たり前のルールは全て適用します。

原則、質問は授業の後に対応します。最近、授業や学問とまったく関係のない質問を授業中にする学生が居ますが、質問をする際は授業の進捗が遅れることと他の学生の時間も奪っていることをよく認識し、授業中の質問はよく考えてから、本当に必要な質問だけをするようにしてください。

【授業時間外学習についての指示】

この科目は、能力的に日商簿記検定2級の学習が終わっている学生を前提としています。非常に難易度が高いので、2級の知識が無ければ、まず授業に付いて来れないと思います。

以前、会計学の初学者であるのに、授業を履修し、その学生のために授業の進捗を遅くしたにもかかわらず、途中で履修放棄したため、他の学生から、シラバスで授業のレベルを明記しているのだから、初学者は受講させるべきではない旨のクレームを受けました。

同2級程度の学力があるか心配な学生は、授業開始までに、どんなものでも構わないので2級の教科書と問題集を使って、全ての範囲の学習を終えておいてください。

【その他連絡事項】

毎週、授業で学習した範囲について問題集の問題をレポートとして課します。授業中にレポートの指示が無くても必ず毎回レポートを提出してください。

問題文をレポート用紙に書き写す必要はありません。レポート用紙に問題を解いて、採点したものをレポートとして提出してください。また、問題集の解答用紙をコピーして、それに問題を解き、採点したものをレポートとして提出しても構いません。